



支署長
野木宏祐

令和3年を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。
降雪量が多く、冷え込みも厳しい本格的な冬になりましたが、新型コロナウイルス禍の中の新年のはじまりとなり、生活と将来への不安を抱え、毎年の行事もできなくなるなど、苦しい日々が続いています。そのような中だからこそ、知恵を絞り、工夫してできることには着実に取り組み、地域と共に前に進んでまいりますので、本年もよろしくお願いいたします。
さて今号では、昨秋以降の当支署の取組を御紹介いたします。

新年の御挨拶



広報まがりや

令和3年1月号 発行 岩手南部森林管理署遠野支署
第56号・復刊第3号



森林鉄道の歴史と活用を学ぶ

盛況だった地域連携講演会

12月16日に附馬牛地区センターで、地域連携講演会「森林鉄道と地域振興」を開催いたしました。この講演会では、富士大学客員教授で森林鉄道研究家の矢部三雄氏を講師に招き、日本の森林鉄道の歴史、林業史上の意義、森林鉄道跡や遺物を活用した地域振興の取組などを紹介してもらい、さ

らに当支署から附馬牛町の森林鉄道に関する写真や遺構などを紹介しました。講演会には、約40人の方が来場して熱心に話を聞いていました。当支署では、今年、再開予定の「遠野早池峰ふるさと学校」内での展示用に、森林鉄道に関する資料や遺物、アイオン台風被害写真の資料等を提供する予定です。

72年前の水害の記録 アイオン台風被害写真展

9月15日から30日まで、昭和23年9月に岩手県に大きな被害をもたらしたアイオン台風の被害写真展を開催しました。

この台風により現遠野市内では早瀬川などが氾濫し、森林鉄道をはじめとする旧遠野営林署の施設が壊滅的な被害を受けています。

写真展では、当時の青森営林局の調査団が撮影した記録写真(当支署所有)や遠野市立博物館が所蔵する「アイオン台風水害記録」(昭和23年9月遠野アミヤ写真

技術部)の写真を、市役所の多目的市民ホールに展示し、当時を知る世代を中心に500名以上の方に来場していただきました。

近年、国内各地で豪雨被害が発生していますが、当展では、岩手県から提供を受けた最新の洪水想定浸水区域図を展示して、来場者に関心をもっていただき、防災意識の啓発に寄与したものと考えています。



アイオン台風被害写真展(9/15-30)

当時を知る多くの方が来場されました。

眞任沢ヒバ天然生林試験地



天然更新したヒバ林

小友町の標高800 m付近の国有林にヒバの天然生林があり、小規模ですが、南部北上山地の本来の植生の名残と考えられます。

9月25日に、森林総合研究所東北支所が試験地を設定しました。今後、ヒバ林の復元を目指して、各種試験が行われる予定です。

国有林モニター現地見学会

東北森林管理局が一般に公募して委嘱している国有林モニターの皆さんの現地見学会が、10月30

日に当支署管内で開催されました。見学会では、支署庁舎の見学や土淵町内の治山・林道施設、琴畑水源の森林再生の取組、シカ被害対策などを視察しました。



支署の山の神の見学

植生保護柵のネットおろし

11月11日に、早池峰山の河原の坊登山道に設置しているシカによる食害から高山植物を保護するための柵のネットを、積雪に備えてたたむ作業を行いました。

今年は、積雪の中での作業となりましたが、比較的に入候が安定



今年の作業を終えて一安心

していたため、円滑に作業を終えることができました。

来年度は、現地に荷上げ済みの資材を使用して50 m程度の拡張を検討しています。

遠野高校生の職場見学会

12月3日に、遠野高校1年生12名が市内企業の職場見学会で来署しました。一時間程度の訪問でしたが、支署長から業務の説明を受けた後、レーザー計測機器で木の高さを図る体験をしたり、庁舎や装備品の見学を行いました。

ウィンターデコレーション

クリスマスや年末年始にあたり、庁舎内外を、遠野の山の素材で作ったリースや寒波を活かしたアイスクャンドルなどで飾りました。リースは遠野市内の全小学校や市立図書館、市観光協会に贈呈し、キラキラと飾ってもらいました。



実際にワナにかかってみた生徒



市立図書館に博物館学芸員の解説を付けて飾ってもらいました。